

半導体漫遊記

湯之上隆

(218)

8月13日の西武ライオンズ対オリックス・バッファローズの試合で、西武先発の斉藤投手が初回に先頭の福田、3回に後藤に死球を与えた。そして西武2番手の森脇投手が4回に、この日3個目の死球をオリックスの若槻(捕手)に当てた直後、両軍入り乱れての乱闘騒ぎが起きた。

実はこの乱闘には伏線があった。8月4日の同カードの試合で、オリックス先発の竹安投手に死球を受けた西武の岡田(捕手)が一步マウンドに詰め寄

り、一触即発の事態となったのだ。埼玉に住む筆者は地の森脇投手の胸を両手

乱闘試合から考える日韓貿易戦争

子どもものケンカには大人の審判を

投手がオリックス福田に2個目の死球を与え、再び両軍がにらみあう事態となった。平良投手は退場となり、1試合3人退場の日本タイ記録をつくってしまった。

後味の悪い西武一本には「自衛隊にレ

元球団の西武ファンで、あるが、二つの試合を見た限りでは両軍のど

の投手も故意にぶつけたとは思えない。厳しくインコースを攻めた結果、少しユニフォームをかすったとか、変化球がすっぱ抜けて

で押したオリックスの佐竹コーチを退場処分とし「警告試合」を直

その後、オリックス先発の田嶋投手が西武の森(DH)にぶつけ、

報復措置と見なされ退場となった。さらに9回に西武6番手の平良

府は口をそろえたように「報復ではない」と言っているが、報復以外何物でもないじゃないか。

韓国には日本に植民地支配された恨みがあるのかもしれない。日本には「自衛隊にレ

ザイ照射したのに韓国が認めない」とか「過去に片付いたはずの徴用工問題を蒸し返しやがって」という怒りがあ

あるのかもしれない。しかし、7月4日に

「半導体材料3品目の輸出規制」という「暴力行為」を發動したの

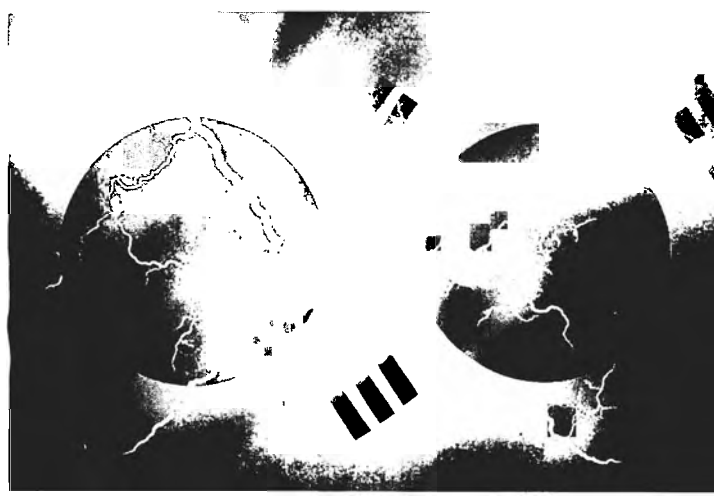
は日本政府である。その後、日本政府が「韓国をホワイト国から除外する」ことを閣議決定し、これに応酬して韓国政府も「日本をホワイト国から外す」決定をするとともに、今

後には日本製材料などに頼らなくてもいいよう出規制したフッ化水素がなければ、韓国は半導体を1個も製造できず、その影響は世界中に波及する(野球に例えれば観客席のファンにも被書が及ぶということか)。

この貿易戦争の本質は「子どもものケンカ」である。そして最初に「暴力行為」を働いた日本に非があるのではないか? 「子どもものケンカ」を仲裁するには「大人の審判」が必要だ。しかし中国と「子どもものケンカ」をして

いる米国に、この審判は無理だ。誰か、日本の「子どもものケンカ」を止めてくれ。

(微細加工研究所・所長)



※イメージ画像